



夏季強化学習週間 8月17日(火)～21日(土)

お盆明けの1週間を「夏季強化学習週間」として取り組みました。
夏休みの後半はどうしても惰性で過ごしがちです。しかし、高校3年生にとっては、もう2学期から大学校や奨学生入試がスタートします。もちろん、1、2年生にとっても2学期は大きくステップアップする時期。そんな大切な期間をスムーズにスタートさせるため、例年は合宿を行って、モチベーションを高め、体は学校生活のスタートに合わせます。しかし、昨年、今年とコロナ禍に見舞われる中で、同じ目的の「強化学習週間」として実施。予定より1時間短縮したプログラムでしたが、課外授業、自蹊タイム(自習)を中心に1日の生活を整え、1週間で過ごしました。

今回のような学習週間や学習合宿では**自習は全学年合同で行い、座席も他の学年とシャッフル**します。後輩は先輩と同じ机につくことによって、学習に取り組む姿勢や努力する気概など、言葉では伝えることのできないものを感じ取ります。先輩は後輩が隣にいることによって、いいかげんな姿を見せるわけにはいきません。皆が緊張し集中したこの空間では時間があつという間に過ぎていきます。通常の学習合宿では1日で12時間近い学習や自習を行います。そのような一人ではできないことでもできてしまうベースにはこういった空間があります。

これは、本校が「**受験は団体戦**」と考えるためです。何でも自分だけで完璧に遂行できる強い意志がある者にとっては必要のないことですが、実際は多くの生徒は未熟であり、なかなか思い通りに学習に取り組めていないのではないのでしょうか。特別進学コースで一人ひとりの生徒が大きく力を伸ばし、志望大学に合格していくのはこういったシステムがあるからなのです。



【基本プログラム】

8:30	登校
8:55~12:45	午前授業(1~4時限)
12:45~13:25	昼食
13:25~16:15	午後授業(5~7時限)
16:15~16:45	清掃
16:45~18:45	自蹊タイム
18:45	下校



「自蹊(じけい)タイム」とは?

全体学習が終わってからの自分の活動を自分で計画する時間のことです。校訓の中にあることばからのネーミングで、自分で自分の生き方を切り開くための時間であることを示します。

現在の「新しい学習観」では「主体性」「多様性」が求められています。自分に必要なものを自分で考えて取り組むことができる力を身につけなければいけません。そうは言っても、高校生でも、自分一人だけで頑張れる強い心を持っている人は多くはありません。自蹊タイムではみんなの頑張りから力をもらいつつも、同時に自主性を高め、心を鍛えていくことを目的としています。

今回の学習週間には「すきま時間を有効活用する」「ノーメディアに挑戦」「自制心を高める」の目標を持って臨みました。

精励恪勤に取り組む先輩方の姿に刺激を受け、私もより一層、意識を高めることができました。また、1週間、メディアに触れない生活をし、スマホを使いたいという気持ちを以前より無くすことができました。

一方、すきま時間については普段のただらした行動を変えられず、同じような学習量になってしまいました。今からメリハリのある行動を心がけないといつまでも変わることはできないと強く感じました。このことに今気づくことができ良かったと思います。

1分1秒を大事にして向上していきたいと感じました。



1年 天沼 優花さん
(福島市立渡利中学校出身)

目標は「苦手分野の克服」と、2年生ではありますが「受験生の意識をもって日々の生活を見直す」の2つでした。

今までに学習した内容を、授業や自習を通して総復習することができたので、2学期をよい形でスタートする土台を作ることができました。

先輩方と合同の自習では、先輩方と自分の自習の姿勢を比較して、自分の集中力、意識の低さを痛感したので、今後、より一層身を入れて勉強に専念したいと思いました。

学習週間を通して、日々の時間の大切さを再確認し、モチベーションを高めることができたので、この成果を今後の日常につなげていきたいです。



2年 安齋 勇希さん
(福島大学附属中学校出身)

自習時間が普段の2倍あるので、その時間と休み時間も活用し、授業の復習に加えて、入試過去問など受験に直結する学習をしようと思いました。

入試問題に取り組んでみると、いつも先生方が出す課題や学習済みの事項であることが分かりました。授業や課題の復習をすることが大学入試に向けての有効な対策であると実感できました。

家庭での学習でも睡魔やサボりたい欲求があまり出ず、集中した家庭学習ができました。学校での自分の課題がうまく達成できなかったからかもしれません。決まった時間内に終わらせるということは大学入試だけでなく社会人としても必要なことなので、今後、処理のスピードも意識していきたいと感じました。



3年 七島 卓太さん
(福島市立野田中学校出身)